乳腺術後超音波検査にて、両側乳癌を認めた一例

◎尾花 康子¹⁾、小森 圭裕¹⁾、今川 昇¹⁾
一般財団法人 京都工場保健会¹⁾

【はじめに】乳房温存術後の伴い、外来だけでなく検診でも乳腺術後超音波画像を見ることが近年増加してきた。術後超音波画像は、異常所見との鑑別も困難を要することがあり判断に苦渋することもある。そのためには、術後超音波画像を知っておくことが極めて重要である。2017年4月～2018年5月において、温存術後乳房超音波受診者47名の超音波画像を調べてみた。変化なし：26名、石灰化：6名、構築の乱れ：6名、皮下漿液腫：4名、腫瘤：3名、皮下肥厚：1名、インプラント：1名であり多彩な変化があることが分かった。

今回、乳腺術後超音波にて両側乳癌を認めた症例を報告する。

【症例】76歳女性。2006年11月左乳癌にて乳房温存術施行。術後は、opeされた病院にてフォローされており、その病院からの依頼でMRI検査のみ当施設で行われていたが、異常は認めなかった。2018年5月当施設にて、術後フォロー目的にて乳腺外来受診。超音波検査は、左乳腺術後部位に一致して石灰化あり。また、SCAR横に構築の乱れを認

め、悪性所見も視野に入れたがDr.判断で術後変化であろうと判断された。右乳腺には、6mm程度の境界不明瞭で後方エコーが減弱したmassを認め悪性を疑いMRI検査を施行。

【結果】MRI検査では、右乳腺AC領域の1cm弱の結節性病変は浸潤性乳管癌と考えられ左乳腺術後部にも造影効果の拡大を認め、再発腫瘍の可能性があると考えられた為、opeされた病院に紹介。細胞診の結果、両側に癌が認められた。

【考察・結語】術後フォローエコーにて、両側乳癌を認めた症例を経験した。術後超音波画像は、多彩な変化をもたらし判断に苦渋する。前回比較等ができれば、変化にも気づくことがあるが初回であれば正常乳腺エコー像で無い場合は、BモードだけでなくColor Doppler等も使用しPI値等も参考所見とすべきと感じた症例であった。

連絡先 一般財団法人京都工場保健会検査課

tel 075-823-0524